

品質・単価向上めざす



竣工記念式典で施設を起動する参加者

ライスセンター改修・集約

【三重・伊勢】JA伊勢は、伊勢北部ライスセンターを改修し、小麦の荷受けに合わせて稼働を始めた。乾燥機ともみすり機を増設・更新し、新たにトラックスケール方式の計量器や最新の色彩選別機を導入。荷受時の渋滞緩和や製品の等級向上が期待される。

三重・JA伊勢

同センターは、1983年の建設から40年が経過し、老朽化が進み稼働が不安定になっていた。昨年10月から改修工事を進めていた。

同JAが実践する「3Cプログラム（持続可能な経営基盤の確立・強化の取り組み）」

竣工（しゅんこう）記念式典は15日に開いた。同JAの役職員をはじめ、JA全農三重

やヤンマーグリーンシステムの担当者らが参加。今後の安全な操業を祈願し、施設の起動式を開いた。同JAの組合員・利用者の期待に応えていくと話す。

修工事を機に、ライスセンターを集約した。一層の品質向上と販売単価の向上を目指し、